

VI 研究

1. 教員の研究活動全般

(1) 平成 15 年度～17 年度 専任教員の研究実績表

本学専任教員(平成 18 年 4 月現在の在籍者と平成 15 年度～17 年度の間の在籍者)の過去 3 ヶ年の研究実績を【表 VI-1】に示す。

専門科目担当の教員は実技系がほとんどであるため、主たる業績は演奏会等の発表である。またその他の実績としては、コンクールの審査員や実技講習会の講師が多い。教養科目と教職科目担当の教員は全員が論文系である。

(2) 研究活動状況の公開

教員の研究活動状況は、毎年度発行している『教育と研究』(参考資料 5)の「主な研究業績」の欄に過去 5 年間の主要業績とそれ以前の主要業績に分けて掲載している。この『教育と研究』は学内教職員に配付する一方、学外にも公開している。

『教育と研究』には、「主な研究業績」以外に各教員の教育と研究に対する取り組み姿勢や実績をいくつかの項目に分けて記載しており、研究内容と教育内容の関連等についても明らかにしている。それらの項目のうち、「研究に関する自己評価」「学外活動(社会に対する貢献)」「研究テーマとその概要」なども研究活動状況公開の一環である。

(3) 過去 3 ヶ年の科研費の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況

平成 15 年度～17 年度の研究資金の調達状況を【表 VI-2】に示す。科研費については、過去 3 年間申請をしていないが、作曲の矢内助教授が日本芸術文化振興基金、福武文化振興財団等の外部団体から研究資金助成を受けている。

(4) 音楽科のグループ研究や共同研究、本学の教育に係わる研究の状況

本学では教員に、学内教職員が自由に参観できる公開授業の実施を奨励している。この公開授業の目的は、授業後のアドバイスやディスカッションによるフィードバックと、他教員の授業の参観・研究から得られる新たな教授技術等による授業改善である。平成 17 年度は 11 名の教員が公開授業を実施した。

また教員の中には海外で行われる国際音楽講習会の講師として招待されたり、外国人演奏家と共演したりするなど、海外の音楽家と積極的に交流を行っている者もあり、その成果を教育現場に還元している。

2. 研究のための条件

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての規程等

本学には教員の研究活動推進を目的とした研究費等に関する規程が定められている。

研究費には、個人研究費、共同研究費および特別研究費がある。

個人研究費の助成額は 1 人あたり年額 40 万円であり、共同研究費と特別研究費の助成

額は年度毎に決定している。個人研究費と共同研究費、個人研究費と特別研究費という組み合わせで助成を受けることも可能である。

研究旅費は国内出張に限り助成され、年額 15 万円が限度額となっている。その他の研究費目については、研究上の必要に応じて総額 40 万円の範囲で助成を受けられる。

(2) 教員の研究成果を発表する機会

教員は、毎年 8 月末と 12 月末に発行される『くらしき作陽大学 作陽短期大学 研究紀要』に研究成果を発表することができる。

研究紀要には、原著論文、研究ノート、資料、書評などの欄が設けられており、投稿者は原則として本学教職員であるが、本学教職員と他大学等の教職員による共同研究の成果も掲載できる。

演奏系の教員は、学内で多数企画されている演奏会、音楽特講等において研究成果を発表することが多い。

作曲系の教員は、音楽学部教員と合同で、毎年 1 回「新作発表の夕べ」と題した作品発表演奏会を行って、研究成果を発表している。

また、演奏系の教員や作曲系の教員には、学外からの演奏依頼や作曲の委嘱が頻繁にある。依頼や委嘱を受けた教員は、各種行事で行われるコンサート、オペラ、ミュージカル等での演奏や作品上演という形で研究成果を発表するとともに、地域の文化活動にも貢献している。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況

昨年度、本学教員全体の研究に係わる支出状況は、以下の【表 VI-3】のとおりである。

(4) 教員室、研究室または研修室、実験室等の状況

専任教員には、職位にかかわらず全員に平均24.2㎡の個人研究室が用意され、教育・研究活動ならびに学生指導に使用している。

特に実技科目担当の教員のうち、ピアノを専門とする教員の研究室にはグランド・ピアノを2台、声楽または管・弦・打楽器を専門とする教員の研究室には1台のグランド・ピアノを標準的に備えている。これらの研究室は二重窓、二重ドア等により防音及び音響効果に配慮した構造となっている。

また、希望する教員の研究室には、インターネットや電子メールを利用するための環境を整備している。

加えて、学内にはパイプオルガンを設置した収容人員 460 人のホール「聖徳殿」と、本格的なオペラ上演も可能な収容人員 810 人のホール「藤花楽堂」を設けており、教育活動だけでなく、研究成果の発表等にもこれらの施設を利用している。

(5) 研修日等、研究時間の確保の状況

本学では毎週水曜日の午後は研修日になっており、さらにそれ以外の時間でも授業がない場合は自由に研修時間に充てているため、十分な研究時間を確保していると考えられる。

また水曜日以外でも、担当する授業や学内業務等がないときは「研修承認願」を提出す

ることにより研修日に充てている。

担当授業がある場合でも、同じく「研修承認願」を提出することにより研究時間を確保することが出来る。